

## 四旬節第一主日

ルカ 4・1-13

2013.2.16 土曜日夜のミサ

今週の灰の水曜日をもって、教会の典礼は四旬節の季節を迎えています。灰の水曜日のミサにお出でになれなかった方のために、このミサの中でも四旬節のはじめに当たっての灰の式を行うことにいたしますので、この後、聖体拝領のときのように、祭壇に向かってお進みください。

ミサのために私たちが囲む祭壇は、聖書に語られているイエスの最後の晩餐のときに弟子たちがイエスとともに囲んだ食卓をかたどっています。今晚もこのミサで祭壇を囲んで集っている私たちは、あの最後の晩餐のときの弟子たちと同じように、イエスに招かれてこの祭壇を囲み、このミサにおいて響く、「取って食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしのからだである。」と言われるイエスのことばを受けて、イエスが与えてくださるいのちのパンをいただくのです。

「これは、あなたがたのために渡されるわたしのからだである。」とこのミサの中で、ここに集う私たち一人ひとりに向かってイエスは語りかけてくださいます。私たちのために渡されるイエスのお体は、十字架の死に渡されたイエスのお体です。十字架の死に渡されることよって、イエスが父とお呼びした神にささげられたイエスのいのちは、私たちの信仰を養ういのちのパンとなって、ここに集う私たち一人ひとりに、イエスによって分かち与えられるのです。今晚私たちがここに集って囲んでいる祭壇は、あの十字架の死に渡されたイエスによって私たちにもたらされた神からのいのちのパンをいただく、イエスが招いてくださる食卓です。そしてそれは、十字架の死を越えてイエスの復活によってもたらされた神のいのちを私たち分かち与えようとして、イエスが招いてくださるいのちの食卓です。今晚もこうして、イエスが招いてくださる食卓をともに囲んで、イエスのいのちのパンを分かち与えられる私たちの中に十字架の死を越えて復活されたイエスの復活のいのちが注ぎ込まれるのです。このようにして、私たちの中に注ぎ込まれるイエスのいのちは、私たちのこの世の信仰のいのちを支え、さらには、この世における私たちのいのちの先に、十字架の死を越えて復活されたイエスが招いてくださる、父なる神のもとでの永遠のいのちの宴へと私たちを招き入れるのです。

今年も四旬節を向かえ、灰の水曜日、そして、四旬節第一主日の今晚のミサの中で、私たちはこの祭壇に近づき、回心のしるしとしての灰を受けます。

教会はこの四旬節を特別に回心のときと定め、日々のあわただしい生活の中で、その流れに身をまかせて、ただ何となく生きてしまいがちな私たちに神を信じる者たちとしての回心を促しています。私たちのカトリック信者としての回心は、そのような生活の中に生きる私たちが、心ならずも犯してしまった過ちを悔い改めるということに尽きるものではありません。私たちの回心は、この世の生活の日々の中に生きる私たちが、洗礼の時に受け入れたはずの神への信仰に立ち戻ることを目指すものです。

そのために、今晚私たちは、私たちが信じている私たちの主イエス・キリストがそのいのちのパンを分け与えてくださる祭壇の前に進み出て、私たちの回心のしるしとしての灰を頭に受けるのです。私たちが生きるこの世の生活は、私たちのこの世のいのちがやがて終わりを迎えるとき、いずれは塵と灰に戻るのです。

司祭が一人ひとりの額に灰を塗りながら「あなたは塵であり、塵に帰って行くのです。」と唱えることばは、私たちに人生のはかなさを諭す暗いことばなのではありません。たとえ私たちのこの世のいのちがそのようなものであるとしても、私たちは、この世の人生において、イエス・キリストがもたらしてくださった福音と出会い、イエスが指し示してくださった神のいのちが私たちのうちに注ぎ込まれていることを知ったのです。そのいのちがどのようにして私たちの中に注ぎ込まれるかを知ったのです。イエスがこの祭壇において、私たちに分かち与えてくださるイエスの体の中に流れている神のいのちを聖体のパンを通していただくことによって、私たちはこの世の生活の中にありながら、神の永遠のいのちに結ばれる者となったのです。そのイエスのいのちを分かち与える食卓である祭壇に進み出て、「回心して福音を信じなさい。」との勧めのことばに従って、額に灰を受けます。

毎年四旬節のはじめに行われるこの灰の式に与ることによって、私たちは神の御前において自分がどのようなものであるかを告白し、塵に過ぎない私たちのために、神がその御子イエス・キリストを通してどれほどのことをなさってくださっているかを、信仰においてあらためて受け止めさせていただくのです。

この世の生活に追われ、自分の中に注ぎ込まれている信仰の喜びのいのちを忘れがちな私たちが、こうして今晚も、そのいのちの源である祭壇を囲みその祭壇の前に進み出て、こころのうちに涙しつつ、イエスが分かち与えてくださるいのちのパンをいただくことが、私たちのカトリック信者としての回心その

ものなのです。四旬節第一主日の今晚のミサの中で、私たちの回心のしるしである四旬節の灰を額に受けて、このミサを通して私たちに示されている信仰の神秘を深くこころのうちに受け止める恵みを願い合いたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高